

県直営による公の施設の管理運営状況

施設の名称	群馬県立土屋文明記念文学館
所在地	高崎市保渡田町2000番地
所管部局・課	生活文化スポーツ部 文化振興課

1 施設の設置根拠(法律、条例等)

社会教育法、博物館法、群馬県立土屋文明記念文学館の設置及び管理に関する条例

2 施設の役割

<p>(1) 設置目的 土屋文明の業績を記念し、文学に関する県民の理解を深め、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する。</p> <p>(2) 設置当初の状況 平成8年7月に社会教育施設として設置した。 土屋文明に限らず、群馬県出身または群馬県ゆかりの文学者に関する文学資料を収集・保存、調査・研究し、その成果を開示・公表するとともに文学に関する教育・普及活動を行っている。</p> <p>(3) 施設を取り巻く現状 入館者数は、平成8年度の開館時約3万7千人あり、平成10年度に約4万1千人となりピークを迎え、その後徐々に減少した後増加し、近年は約3万人前後で推移している。観覧者とその他利用(講演会、自主学習会、移動展等)の割合は1:3となっている。観覧者は個人の利用が多く、学校連携については短歌教室事業や団体受入等によって、約4千人の利用がある。 本施設は、高崎市が管理する「上毛野はにわの里公園(歴史公園)」内に位置しており、園内には、国指定の古墳群や高崎市立かみつけの里博物館などがある。</p>
--

3 施設の概要

設置年月日	平成8年7月11日(開館7月11日)
敷地面積(所有者)	2,465.61平方メートル(高崎市)
主な施設(床面積、階数等)	企画展示室、特別展示室、常設展示室、研修室、収蔵庫、書庫等(延床3,171平方メートル、2階建)
建設費	2,731,292千円
備考	

◇入園料・利用料等

(円) ◇利用時間(休館日)

区分	金額		9:30~17:00(観覧受付は16:30まで) 火曜日(祝日の場合はその翌日) 年末年始、臨時休館日
	企画展	常設展のみ	
一般	410、団体320	200、団体160	
大学生・高校生	200、団体160	100、団体80	
中学生以下	無料		
障害者・介護者	無料		

4 施設における実施事業

<ul style="list-style-type: none"> ・展示 企画展示、常設展示、移動展 ・教育普及事業 企画展：記念講演会、企画展関連行事 子ども向け：小学生の短歌教室、歌人が学校に、群馬県児童生徒短歌展、紙芝居フェスティバル、 大人向け：連続講座、特別講演、大人のための紙芝居、群馬県文学賞受賞記念講演 その他：文学資料閲覧、自主学習会(古典・俳句・短歌等) ・ボランティア活動 おはなしのへや(読み聞かせ・紙芝居)、広報、交通整理誘導、常設展示解説、ミュージアム ショップ、ミュージアムコンサート、ティーサービス(茶席体験)
--

5 管理運営コストの状況

(千円)

区 分	30年度(当初予算額)	29年度(決算額)	28年度(決算額)	27年度(決算額)	26年度(決算額)
歳入(1)	3,887	3,002	2,827	3,057	3,094
観覧料	1,535	1,091	1,284	1,546	1,342
施設使用料	827	730	402	433	610
その他収入	1,525	1,181	1,141	1,078	1,142
歳出(2)	160,764	155,259	154,843	152,254	152,172
常勤職員	90,147	90,792	87,488	85,203	85,904
非常勤職員	18,103	17,982	18,149	17,956	18,002
管理事業費	52,514	46,485	49,206	49,095	48,266
歳入・歳出の差額(1)-(2)	▲ 156,877	▲ 152,257	▲ 152,016	▲ 149,197	▲ 149,078
歳入・歳出の主な増減理由	29年度の歳出には病休者(常勤職員)が11月分まで含まれている。				

6 職員の状況(各年度4月1日現在)

(人)

	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
常勤職員※	10	10	10	10	10
非常勤職員	8	8	8	8	8
合 計	18	18	18	18	18

※病休中の者は含まず。(29・30年度)

7 施設利用の状況

区 分	30年度※	29年度	28年度	27年度	26年度
年間利用者総数(人)	22,842	31,772	29,498	33,841	29,386
有料利用者数(人)	5,999	3,147	3,694	4,344	4,028
無料利用者数(人)	16,843	28,625	25,804	29,497	25,358
目標利用者数(人)	35,000	35,000	34,000	34,000	34,000
施設稼働率(%)	—	—	—	—	—
稼働率対象施設(設備)	—				
利用者の主な増減理由	観覧者は最近では平成27年度をピークに減少気味であるが平成30年度は夏の「金子みすゞ」展がヒットし観覧者は大きく増加している。教育普及事業(特に移動展の開催状況)の参加状況により、利用者数が増減している。				

※ 見込数又は途中実績を記入(H30.9.30現在を記入)

8 必要性及び管理運営方法についての方向性

区分	検討結果・理由等
施設の必要性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 県の施設としてこのまま存続 <input type="checkbox"/> 県の施設として事業規模等を縮小して存続 <input type="checkbox"/> 市町村に移管・譲渡 <input type="checkbox"/> 民営化・民間譲渡 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> ①今後の施設の必要性 公共施設のあり方検討委員会において、「施設の今後のあり方としては、継続とすることが適当であるが、入館者数はピーク時から半減している。総合的文学館としての機能を高め、また、利用者の増加を図るため、館名変更を含めて、文学館のあり方について専門的視点及び県民の視点から検討する必要があると考える。」との答申を受けている。施設の老朽化など、維持管理に難しい点はあるものの、企画展や教育普及活動を通じて、県民の文化活動に寄与している。当館の教育普及事業への参加者から、群馬県文学賞や他の文学賞受賞者を輩出するなど、群馬県の文学界に対する当館の存在意義は小さくない。 </p> <p> ②県が直接実施した方が良いと考えられる事業・業務 学芸部門 長期的視野に立った資料の収集保存等が重要であり、企画立案等についても高度な専門性を必要とする。 教育普及部門 学校現場の教員を配置し、学校教育との連携を図っている。 </p> <p> ③県直営で運営する場合に考えられる業務の効率化等 受付・ショップ運営業務の民間委託。企画展開催期間以外の休館。 館内燻蒸の隔年実施。（展示に関しては下記に記載） </p>
指定管理者制度	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 県直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度導入 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> 民間が得意の分野（広報、来館者サービスの向上、人件費等の削減と効率的な事業運営）については、メリットがあると思われるが、資料収集・保管、調査研究、展示等は専門知識と経験が必要であり、指定管理期間が長期でないと施設として安定的な取組が難しい。施設管理のみを指定管理とする考え方があるが、施設が老朽化し、修繕等に多額の費用が必要であり、緊急対応等が必要なケースもあり、対応への担保が必要である。施設管理は、教育普及係3人が兼務しており、人件費の削減効果は薄い。 </p>

■ 見直しの検討が必要なものがある □ 当面見直しの必要はない

①施設運営における課題と考えられる解決策

○路線バスなど公共交通機関のアクセスが著しく不便である。

地域の文化施設（かみつけの里博物館・県立日本絹の里）とともに、路線バスの路線の改善をバス会社へ働きかける。

○専用の駐車場がない。

当館は高崎市のかみつけの古墳公園内にあり、自前の駐車場がない。そのため、最近、民間イベント（ポケモンGO）が開催されると全ての駐車場を占拠されてしまい、入館できない事態となっている。現在は、建物敷地のみの貸借であり、駐車場部分の貸借を高崎市へ申し入れる。

○常設展示室のレイアウトが変更できない。

平成8年の開館以来内容はほとんど変わっていない。27年度に展示内容の一部修正等を行ったのみ。展示内容のリニューアルを進める予定であるが、県内文学者の展示も併せて行える構造にする必要がある。

○収蔵設備が足りない。

特別資料等の収蔵庫が足りない状況である。収蔵資料の見直しや県立文書館への預け入れ等の働きかけを検討する。

○施設設備が老朽化している。

故障や不具合が多発している。故障や不具合に速やかに対処するとともに、管財課の長寿命化計画に基づき、抜本的な改修を行う。

②利用者の増、サービス向上に向けた取組

○メリハリのある企画展の開催

県内の文学者だけでなく、集客が望める一般県民からの要望の高い企画展を開催する。平成30年度は、本県とゆかりのない「童謡詩人金子みすゞの世界」や、文学以外の要素を取り入れた「『南総里見八犬伝』と群馬#浮世絵#絵草紙#ジュサブロー人形」などを開催。「金子みすゞ展」は7,806人と過去3番目の観覧者数を記録。

○広報の強化（当館を知らない者に向けてのPR）

各種フリーペーパーへの掲載、新聞社関連紙への掲載、各種インターネットへの掲載（「ぐんまちゃん家」のブログ、イベントバンクへの登録、県HPやぐんまちゃんfacebook等の活用）、メディアへの企画展事前説明会の開催、SNSを意識したパネル等の設置

○教育普及事業の強化

・巡回展（移動文学館）の充実

文学館から遠隔地に住む県民に対して、文学に触れる機会を提供する

・学校との連携強化

小学校向け「短歌を学ぶ」副読本の作成など

学校団体の受入体制の強化のため、学校の要望に応じたプログラムの作成

小学生の短歌教室、歌人が学校へ！の実施校の充実、群馬県児童生徒短歌展への出品の増

○地元自治体や関係団体との連携強化

・地域の文化施設（かみつけの里博物館・県立日本絹の里）との三館連携の推進

三館イベントカレンダーの作成やスタンプラリーの実施

・高崎市等が実施する「夏祭り」「古墳祭り」への参加、暮鳥・文明祭りへの協力

③今後、県直営を継続した場合、運営の効率化（費用対効果の改善や経費縮減等）が可能と考えられる部分

企画展の予算削減により十分な費用を掛けられないため、パッケージ的企画展の実施や企画展回数減による1回あたりの企画展予算の増、他県の文学館と連携した共通の企画展（巡回展）の企画の呼び掛け等

業務等の見直し